

# 令和4年度「現代の国語」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	普通科・理数科・美術科	国語	現代の国語	2	必修
<b>教科書</b>	高等学校 現代の国語(第一学習社)				
<b>副教材</b>	新版五訂 新訂総合国語便覧(第一学習社)				

学習の目的	
1	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
2	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
3	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学習の目標	評価の割合
<b>I</b> 知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。	6
<b>C</b> 思考・判断・表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	2
<b>E</b> 学びに向かう力・人間性等 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	2

つきたい力	学習内容を人生や社会のあり方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるための「主体的・対話的で深い学び」を実現することができる。
-------	---

評価方法	I	C	E
◇ 定期考査や小テストの結果、課題やレポートの提出状況、学習ポートフォリオ、成果発表状況、作品制作など、総合的に判断して算出します。	○	○	○
◇ 授業に取り組む姿勢としては、予習復習を含む授業態度、グループ活動や発言の状況などを評価の対象とします。		○	
◇ 課題やレポートなどの提出物については、提出期限や分量を守れたか、自分の視点で考察できたか、丁寧に書くことができたかなどを主な評価基準とします。	○		
◇ 考査では、授業での学習内容が理解できているかどうかを確認します。応用問題も出題します。	○	○	
◇ 考査のふり返し学習を行い、学習内容の定着や学びに向かう力を図る参考とします。			○

履修上の注意および学習のアドバイス等
◇ 言葉による見方・考え方を働かせ、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるよう、常に心がけ、主体的に学習に取り組む態度を身につけること。
◇ 授業用プリントなど補助教材も有効に活用し、主体的・協働的態度で授業に臨むこと。

## 年間指導計画

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	考查	思考を深める問い (C・E)	I: 知識理解		C: 思考判断表現		E: 学びに向かう力・人間性
第1学期	4	「水の東西」(山崎正和)	○東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。		※世界各国の水を用いた芸術や仕掛けを調べ、説明文にまとめて発表し合おう。	○			○	
	5	「水の東西」(山崎正和) 「羅生門」(芥川龍之介)	○東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論実叙述の方法を把握する。 ○比喩表現や慣用句などの表現技法に留意しながら、文章構成と展開を読み取る。○下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。	中間考查	※老婆の弁明(論理)を自分はどうのように受け止めるか、各自の意見を発表し合おう。	○	○			
	6	「ものことば」(鈴木孝夫)	○具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の性質を理解する。	期末考查	※本文で例示されている「机」の定義を参考にして、「棚」「机」「床」など身の回りのものを取り上げ、定義して文章にまとめ、発表し合おう。	○			○	
	7	「ものことば」(鈴木孝夫)	○主張と根拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ○事柄が的確に伝わるように、表現の仕方を工夫する方法を学ぶ。		※文章に含まれている情報を関連付けながら、論理を分析しよう。	○	○			
第2学期	9	「文化としての科学」(池内了)	○筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する。	課題考查	※筆者の問題提起と問題解決の主張を参考に「科学と技術と私たちの関係」について文章にまとめ、発表し合おう。	○	○			
	10	「文化としての科学」(池内了)	○筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する。	中間考查	※筆者の問題提起と問題解決の主張を参考に「科学と技術と私たちの関係」について文章にまとめ、発表し合おう。	○			○	
	11	「現代の『世論操作』」(林香里)	○情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者としての問題意識を持つ。	期末考查	※メディア社会に生きる人間としてどのような課題があるか、各自の考えを文章にまとめて発表し合おう。	○			○	
	12	「現代の『世論操作』」(林香里)	○情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者としての問題意識を持つ。		※メディア社会に生きる人間としてどのような課題があるか、各自の考えを文章にまとめて発表し合おう。	○	○			
第3学期	1	「不均等な時間」(内山節)	○具体的事例から一般論への展開と、対比構造を手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。	実力考查	※本文末尾の筆者の提案を受け、「自然と私たちの生活」をテーマに、意見文を書こう。	○	○			
	2	「不均等な時間」(内山節)	○具体的事例から一般論への展開と、対比構造を手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。	学年末考查	※各自の意見を文を参考に、今後の社会に求められることを調べて各自でまとめ、発表し合おう。	○			○	
	3	「デザインの本意」(原研哉)	○文章に含まれている情報を相互に関連付けながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を学ぶ。		※各自の意見を文を参考に、今後の社会に求められることを調べて各自でまとめ、発表し合おう。	○			○	

※行事等で変更になる場合があります。